

トルコ為替週報

2022年10月18日 | みずほ銀行欧州資金部

<過去1週間の動き>

(10月11日～10月17日)

USD/TRY: 18.5550～18.5950

TRY/JPY: 7.83～8.00 (参照値)

過去1週間のトルコ・リラ相場は、対ドルでは、相変わらず、欧州勢が不在の時間に不自然なリラ上昇が散見されたものの、欧州時間の値動きだけを見れば、史上安値圏に膠着。折からの円安を反映し、リラが対円で堅調を維持したことに違和感は少なかったものの、この間目についてのトルコ固有の要因が、軒並みリラ安要因と読めた経緯から、対ドルでの膠着は「想定外のリラ堅調」と読むことができた。11日発表されたトルコ8月経常収支は、市場予想を僅かに上振れた(注1)ものの、過去4年間、コロナ禍下で観光収入が激減した2020年を除き、同8月収支は大幅黒字を計上してきた事実を鑑みれば、大いに失望を買う数字。直前12カ月の累積赤字も-458.3億ドルと前月の-408.9億ドルから更に悪化、直近の底値(21年2月の-370.2億ドル)を一段と割り込む結果となった。14日トルコ中銀が発表した10月調査結果は、期待インフレ率の一段の伸びを示したが、それ以上に懸念されたのは、今年末のドル/リラ水準予想が、前月の19.51から19.82へとリラ安方向に切り下げられたこと。17日発表されたトルコ9月財政収支は明確な赤字に落ち込んだが、これも9月の赤字幅としては例外的に多額と言えた。また、同日、トルコ中銀が発表した対外債務統計は、同国の短期対外債務が、昨年末時点の1,216億ドルから8月末までに1,381億ドルに増加した事実を明らかにした。当該時期の総外貨準備高は、この間、様々な外貨資金流入があったにもかかわらず、概ね水準だったことから、対外短期債務に対する外貨準備の規模は0.60年分から0.52年分に低下した(注2)。

<過去1週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
10/11	7:00	経常収支(USD)	8月	-3.11bn	-3.15bn	-4.09bnr
10/12	7:00	鉱工業生産(前年比)	8月	+1.0%	+2.7%	+2.5%r
	7:00	小売売上高(前年比)	8月	+9.0%		+2.3%r
10/14	7:00	期待インフレ率(翌12ヵ月)	10月	+37.34%		+36.74%
10/17	8:00	財政収支(TRY)	9月	-78.6bn		+3.6bn

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう1週間の見通し>

(10月18日～10月24日)

USD/TRY: 18.570～18.670

TRY/JPY: 7.90～8.05

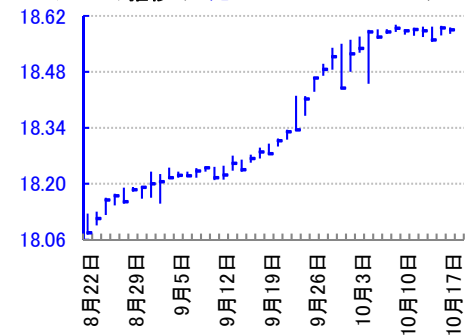
向こう1週間のトルコ・リラ相場は、対ドルで、史上最安値圏における膠着の継続を予想。値動きがあるなら、引き続きリラ安方向を警戒する。対円での値動きは円相場(対ドル)動向次第だが、心理的な節目と思われる150円を目前に、介入警戒感もあって、神経質な上下動を見ることになるのではないかと。対ドルでのリラ安基調を見込むのは、引き続き、国外からのトルコ向け投資(対内投資)が概ね枯渇した状態で、恒常的な経常赤字(リラ売り実需>リラ買い実需)に変化が見込めないから。国外投資家がトルコ向け証券/直接投資に尻込みする理由としては、少なくとも見積もっても ①名目利回りがインフレ率を大幅に下回る事実(リラ建資産価値が上昇してもインフレによる目減りの方が大きいこと) ②頻繁に変わる、実質資本規制紛いの規制に対する不透明感 ③公式統計に信頼がおけないことの3点が挙げられる。一方で、実質実効リラの足元堅調(注3)が貿易/経常赤字の定着を促しており、経常赤字基調の変化も当面は見込めない。エルドアン大統領は、この間、トルコを、ロシア産天然ガスやリビア産原油を欧州に送り込むためのハブにする意向を繰り返し表明した。燃料不足・価格高騰に苦しむ欧州との関係改善を図ろうとの構想と思われる。確かに、一旦トルコに輸入されたロシア産天然ガスを、アゼルバイジャン産、カタール産のそれと見分けることはできないだろう。それでも、欧州主要国が嬉々としてトルコからの天然ガスを受け入れる可能性は考え難いのではないかと。ましてや、トブルク政府(注4)を蔑ろにし、トリポリ政府(注5)と地中海の海底油田開発に合意しても、EUとの火種を大きくするだけのようと思われる。エルドアン大統領が「金利は年内に一桁まで下がる」と断言している以上、年内にあと3回しかないトルコ中銀金融政策委員会では、利下げ以外の選択は考えられない。

<向こう1週間に発表予定の主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
10/20	11:00	1週間物レボ金利			11.00%	12.00%

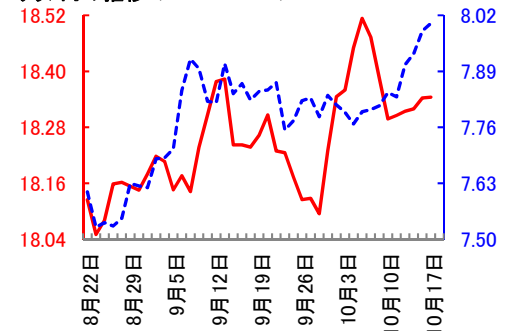
(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

USD/TRYの推移 (日足/ロンドン 7:00～17:00)



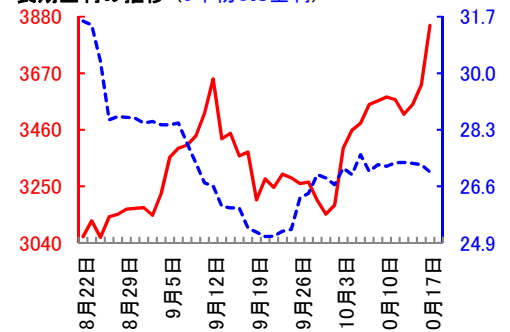
バスケット/リラの推移 (トルコ中銀公示)

リラ/円の推移 (ロンドン17:00)



株式市場の推移 (ISE 100種指数)

長期金利の推移 (5年物OIS金利)



(資料: トルコ中銀/トムソンロイター/ブルームバーグ)

トルコ関係主要経済指標

1週間物レボ金利		12.00%
成長率(GDP/前年比)	Q2	+7.6%
失業率	8月	9.6%
消費者物価(前年比)	9月	+83.45%
鉱工業生産(前年比)	8月	+1.0%
小売売上高(前年比)	8月	+9.0%
貿易収支(USD)	8月	-11.19bn
経常収支(USD)	8月	-3.11bn

<お知らせ>

筆者退職に伴い、「トルコ為替週報」の発行は当面の間中断させていただきます。長い間ご愛読いただき、ありがとうございました。

(注1) 赤字幅が小幅だった

(注2) 一般に1年分あれば対外債務返済に「十分」な水準と見做される

(注3) 国内物価(生産コスト)急騰で失われた対外競争力を補う程にリラ下落が追い付かない状態

(注4) ギリシャ、フランスなどが支援する

(注5) トルコ、カタールなどが承認する

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。